

第2回 学校関係者評価委員会

実施日 : 平成21年2月10日 午後4時～

会場 : 甲斐市立竜王北小学校校長室

参加者 : (学校関係者評価委員)

秋山敬二 長田 貞夫 谷素代 仲沢美紀 土井優美
貝瀬さゆり (石橋美和委員は所用のために欠席)

(学校側) 校長 古屋昭彦、教頭 長沼重治、教務主任 小林治夫

I 学校側から提案された内容

- ・校長先生の学校経営方針について。
- ・学校評価制度の意味と学校経営の中での位置づけ
- ・教職員自己評価、児童向けアンケート、保護者向けアンケートの分析の説明。
- ・竜王北小学校の自己評価書の説明。

II 協議された内容

- ・自己評価書の全体的な特徴。
- ・自己評価書で肯定的な評価をされた項目及び各設問について。
- ・自己評価書で肯定的な意見が割と少なかった項目及び設問について。
- ・地域や家庭での児童の生活実態と自己評価書との関係。

〈学校関係者評価書〉

I 全体評価

竜王北小学校の学校経営並びに学校運営についての総合的な評価は、非常に高水準を保っていると言える。

まず、教職員評価、児童アンケート、保護者アンケートとも全ての項目において、肯定(そう思う、ほぼそう思う)の割合が80%～90%を超えている。

この根底になるのが、校長先生の教育及び学校経営に対する識見の深さや熱意である。そして、教職員の資質及び教育に対する意識の高さである。教職員が一丸となって教育活動を行うために、校長先生が年度当初に学校経営方針をはっきりと教職員に示し、毎月毎月、指導の重点及び教育活動推進上留意点を職員に示し、学校経営方針の職員への理解を深めている。このことにより学校が進むべき方向がはっきりすると共に教職員が一つになって児童の指導等、教育活動を行う大きな推進力となっている。竜王北小学校の特色である音楽活動、体育活動への取り組み及び、その成果の発表の場としての音楽会、運動会はすばらしいものである。

また、校長先生は保護者に対して、「竜北小だより」を毎月2回程度発行している。これは、竜王北小学校の様々な行事や授業の様子、子供たちの生活の様子をデジタルカメラの画像と共に、読むものを引きつける巧みな文章で紹介しているものだ。保護者にとっては、年に数回の授業参観ではなかなか知ることができない学校の様子を知ることができるとても良い取り組みである。また、この「竜北小だより」は、各地区の安全パトロールを行っていただいている責任者の方や学校評議員の方にも送付され地域との連携を深めている。さらに、地域の方が学校の中に入ってもらい教育活動の手助け(本の読み聞かせ、稲作りの講師、豆腐作りの講師等)を行っている。これらの地域の方に竜王北小学校の教育活動を知っていただく取り組みは、地域ぐるみの教育、学校と地域の連携が叫ばれている昨今とても大切なことである。

竜王北小学校の自己評価においては、特に項目Ⅰ、項目Ⅱ、項目Ⅲ「学習指導について」、項目Ⅳ「生徒指導について」について、肯定的な評価が高くなっている。また、項目Ⅴ「地域との連携について」と項目Ⅵ「学校の特色に関して」の評価についても1回目の自己評価より、2回目の自己評価の方が肯定的な割合が多い。これは、1回目と2回目の実施間隔の短さを考えに入れても、学校として学校運営の改善を図るために、学校自らが自己評価を分析し、教職員の意識改革の取り組みを行っていることがはっきりと数値として出ている。このような、教育水準向上のため、素早く行動する竜王北小学校の姿勢は高く評価できる。

今回は、保護者アンケートが実施された。その分析結果から、保護者は学校に対して大きな信頼を寄せていることが分かる。

特に、学校の教育については、どの項目も肯定的な評価が高くなっている。しかし、肯定の評価の中で「そう思う」より「ほぼそう思う」の割合が多くなっている項目もある。児童用アンケートにおいては、ほとんどの項目が「そう思う」の割合が最も高くなっている。

保護者に学校の情報を積極的に提供している竜王北小学校であるが、さらなる情報提供に努力する取り組みを期待したい。そのことが、さらに保護者の理解を得ることになり、学校と保護者の信頼関係が高まり、教育活動の向上に繋がると考える。

II 特徴

第2回学校関係者評価委員会の評価として竜王北小学校の特徴的な点を以下のようにまとめることができる。

(1) 校長の学校経営方針を教職員が十分に理解している。そして、学校が組織として教育活動を行うとともに、教育水準の向上に向けて取り組んでいる。

〈判断の根拠〉自己評価の項目Ⅰから項目Ⅵの全てにおいて肯定的な評価がほぼ9割と非常に高い。

特に項目Ⅰ「学校教育目標に関して」は常に教職員が学校教育目標を意識した学級経営を行っていることが明らかになった。「③学年の教育活動計画が教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」の教師の肯定的な評価は100%、「④学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。」が100%である。

(2) 教師集団が共通理解の元に熱意を持って日々の授業に取り組んでいる。

〈判断の根拠〉学校側から示された学校経営方針に基づき、日々の授業の中で児童の理解を深めるべく指導に当たっている。項目Ⅲ「学習指導について」の教師の肯定的な評価が高いことから教師が授業に対してとても熱意を持っていること、どの児童にも基礎基本の定着を図るべく努力していることが分かる。

(3) 教職員と児童の間の信頼関係、及び児童同士の人間関係がしっかり構築されている。また、保護者が学校を信頼している。この良好な関係の上に立って、日々の教育活動が行われている。

〈判断の根拠〉児童用アンケート①「学校が楽しいですか。」では9割を超える肯定的な答えがあった。また、②「クラス(学年)に仲良く遊ぶ友だちがいますか。」も肯定的な答が9割を超える返答であり、これらから教師の学級経営がしっかりできているから安心して学校生活を送れていると考える。また、保護者アンケート①「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」は95.8%が肯定的な答えとなっている。

III 今後の課題として意識されたいこと

(1) 竜王北小学校では、「開かれた学校」について現在も様々な取り組みを行っている。これからもさらに取り組み内容を質量共に高めて欲しい。

〈判断の根拠〉「竜北小だより」、「学年だより」、「学級だより」等で保護者に学校での学習の様子や生活の様子を伝えたり、地域の方に「竜北小だより」を送付し学校への理解を深めていることはとても高く評価できる。しかし、これからの時代は学校・家庭・地域が連携する中で教育を行うことが今まで以上に大切なこととなると思う。その点では、保護者に学校での教育活動についての取り組みの情報を積極的に提供すると共に、さらに信頼関係が深まるよう学校においても一層の指導充実に努めることが課題であると考ええる。

(2) 保護者の教育活動以外の学校の取り組みに対する評価が低い。

〈判断の根拠〉保護者用アンケート「学校に評議員制度というものを知っていますか。」の肯定的回答が38.4%となっている。竜王北小学校では、学校評議員制度を平成17年度に取り入れた。学校は、学校評議員に様々な形で情報を提供下すると共に、様々な学校行事に参観させていただいている。そして、学校運営上有意義な意見を聞き入れ、学校運営の改善の参考としている。今後は、この学校評議員制度や学校評議員の学校運営改善における役割についての情報を保護者に積極的に提供する必要があると考える。

※特記事項

(1) 竜王北小学校の校区内に児童養護施設があり、様々な課題を抱えているが、校長先生以下教職員が一丸となって取り組みをしている。このため、学校、学年、学級の経営が担当教師を中心にとってもよいものとなっている。